

2025年12月期

決算説明会



カゴメ株式会社
証券コード:2811

本資料における数値について

- ・金額は億円未満を切捨てで表示しています。
- ・%については小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。

INDEX

1 2025年12月期 決算概要

2 2026年12月期 業績予想

- 売上収益：国際事業がトマトペースト市況の下降影響などにより減収
- 事業利益：国際事業が減収の他、製造工程不具合など一時的な損失の影響で減益
- 営業利益/当期利益：前期に、Ingomar連結子会社化による一時的な評価差益93億円を含む

単位:億円	25年度実績		対前年	増減率	24年度 実績
		比率			
売上収益	2,942	-	△126	△4.1%	3,068
事業利益	226	7.7%	△44	△16.2%	270
営業利益	226	7.7%	△135	△37.5%	362
当期利益※	148	5.0%	△102	△40.8%	250

※親会社の所有者に帰属する当期利益

- 国内加工食品事業：飲料が全体を牽引し増収、事業利益はコスト上昇続くも、広告宣伝費減少などで横ばい
- 国際事業：トマトペースト市況の下降影響で減収、減益の他、製造工程不具合等一時的な損失などにより減益

	2024	2025
米ドル	151.58	149.71
ユーロ	163.95	169.00

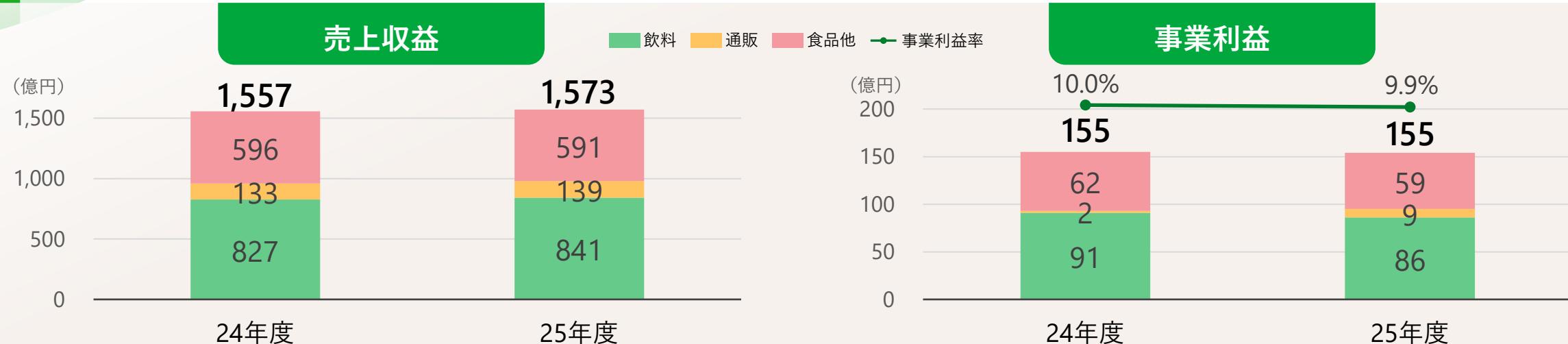
売上収益

単位:億円	25年度実績				24年度 実績
	対前年	増減率	為替影響		
飲料	841	+14	+1.8%	-	827
通販	139	+6	+4.7%	-	133
食品他	591	△4	△0.8%	-	596
国内加工食品計	1,573	+16	+1.0%	-	1,557
トマト他一次加工	696	△126	△15.3%	△2	822
トマト他二次加工	636	△69	△9.8%	△3	705
調整額	△34	+0	-	+0	△35
国際計	1,298	△194	△13.0%	△5	1,493
その他/調整額	71	+52	+283.1%	△1	18
合計	2,942	△126	△4.1%	△7	3,068

事業利益

	25年度実績				24年度 実績
	対前年	増減率	為替影響		
	86	△4	△5.3%	-	91
	9	+7	+313.3%	-	2
	59	△3	△5.3%	-	62
	155	△0	△0.4%	-	155
	53	△30	△36.0%	+0	83
	44	△25	△36.9%	△0	70
	△5	+9	-	-	△14
	92	△46	△33.4%	△0	139
	△20	+3	-	+0	△24
	226	△44	△16.2%	△0	270

- 売上収益は食品他が減収も、飲料・通販が好調に推移し、全体では增收
- 事業利益は全体として原材料などの製造費用が継続的に上昇、広告宣伝費減少などで通販が増益



飲料・通販は増収、食品他は減収

- **飲料:** トマトジュース出荷量4年連続で過去最高、カテゴリー全体を牽引
野菜生活100は発売30周年、子育て層向けプロモーション展開
アーモンドミルクを本格展開開始
- **通販:** 通販限定のトマトジュース「日本のトマト」やスープが堅調
- **食品 家庭用/業務用:** 洋食メニュー提案奏功で、トマトケチャップ・ソース好調
業務用: 冷凍野菜の出荷減

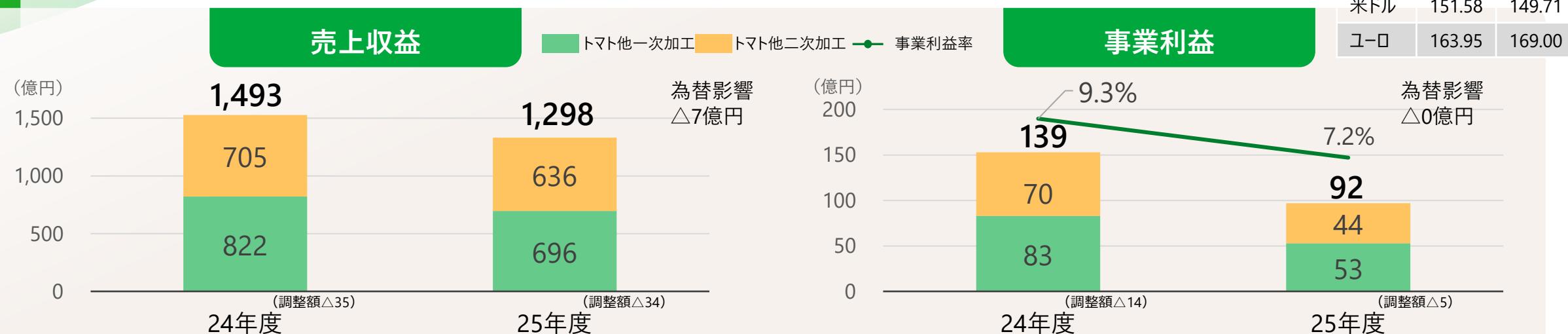
通販は増益、飲料・食品他は減益

- **飲料:** 原材料などの製造費用の継続的な上昇により減益
- **通販:** 広告費の戦略的投下などにより増益
- **食品 家庭用/業務用:** 減収の他、原材料などの製造費用の継続的な上昇により減益

- 原材料費などの原価変動により△26億円も、ロス削減などの原価低減が進み+14億円、合計で△12億円
- 広告宣伝費は費用対効果を考慮した戦略的投下などにより+9億円



- 売上収益はトマトペースト市況が下降したこと、トマト他二次加工で一部顧客向け販売が低調に推移し減収
- 事業利益は減収に加え、一時的な損失などの影響で減益



トマトペースト市況の下降、二次加工向け販売減少で減収

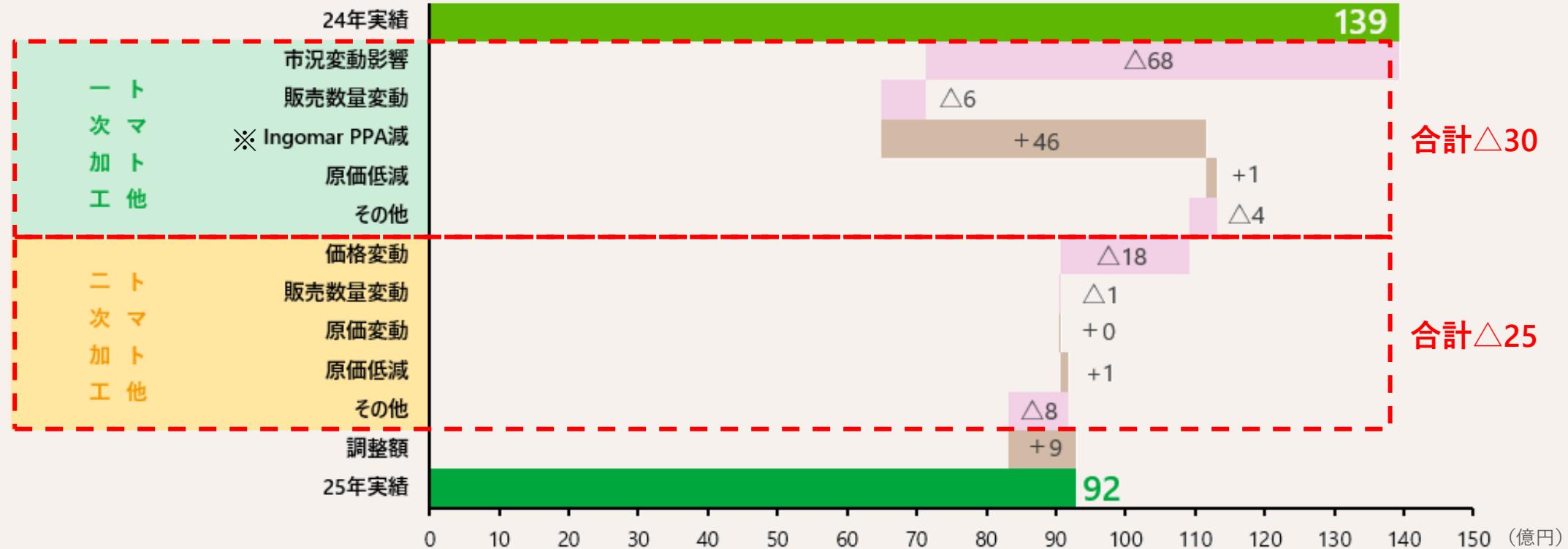
- トマト他一次加工:
トマトペースト市況の下降影響により販売価格を引き下げ減収
- トマト他二次加工:
米国でフードサービス企業向け新規案件獲得も、トマトペーストを原料とする製品の販売価格引き下げ、一部の既存顧客における販売が低調に推移し減収

減収に加え、一時的な損失で減益

- トマト他一次加工:
減収の他、製造工程不具合などによる一時的な損失により減益
- トマト他二次加工:
減収の他、製造工程不具合などによる一時的な損失により減益

1 2025年度 国際事業 事業利益増減要因

- トマト他一次加工：市況の下降影響を受け、ペースト販売価格を引き下げたことにより△68億円
- トマト他二次加工：一次加工同様、平均販売価格は前期から低下。その他には、一時的な損失7億円を含む

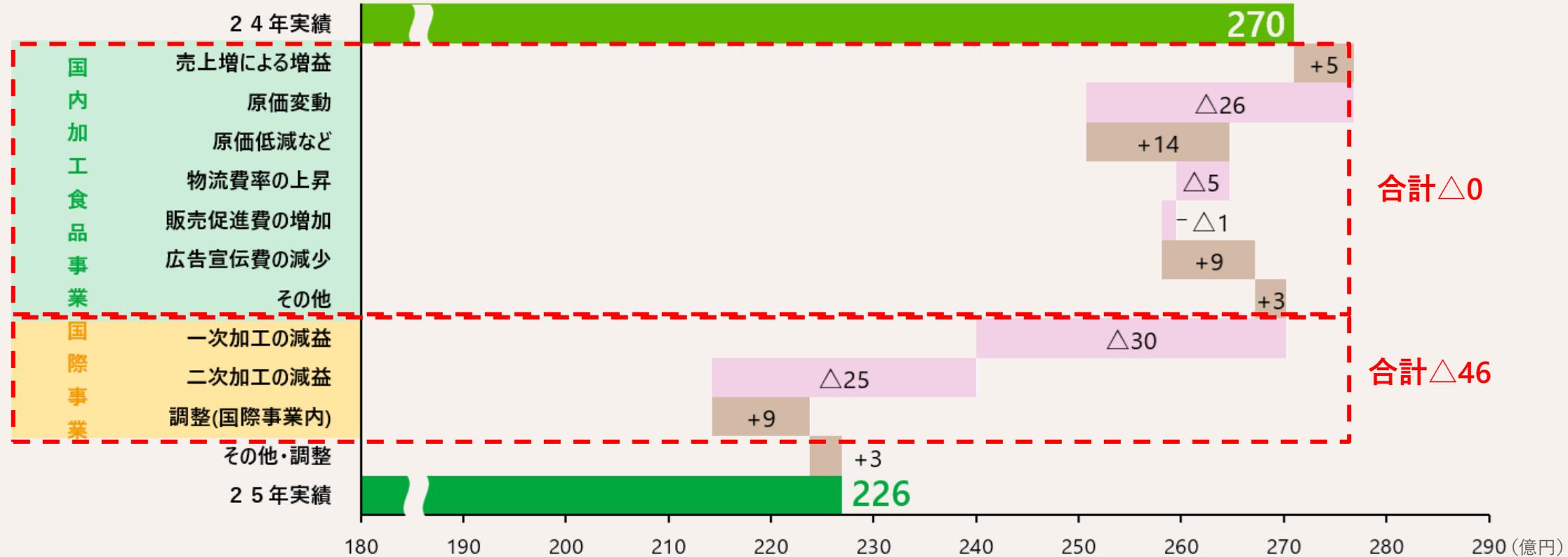


※企業結合会計を適用したことに伴う、在庫・固定資産（有形・無形）などを時価評価したことにより生じる利益影響：24年度 △79、25年度 △32、増減+46

1 2025年度 連結 事業利益増減要因



- 連結全体の事業利益増減要因は以下の通り



1 2025年度 営業利益、当期利益増減要因



- ①その他の収益：前期、Ingomarを連結子会社化したことによる一時的な利益93億を認識した反動
- ②実効税率（例年30%前後）：Ingomar税務申告調整などの影響で前期に続き、例年より低い

単位:億円	25年度実績			24年度 実績
		対前年	増減率	
事業利益	226	△43	△16.2%	270
その他の収益	① 6	△94	△93.6%	100
その他の費用	7	△2	△26.0%	9
営業利益	226	△135	△37.5%	362
税引前利益	211	△125	△37.3%	336
法人所得税費用	50	△14	△21.9%	64
実効税率	② 24.0%	+4.7pt	—	19.3%
非支配持分に帰属する損益	12	△9	△41.9%	21
当期利益※	148	△102	△40.8%	250

※親会社の所有者に帰属する当期利益

INDEX

1 2025年12月期 決算概要

2 2026年12月期 業績予想

- 国内加工食品事業：2月より家庭用・業務用の飲料の価格改定を実施し増収増益
- 国際事業：トマト他一次加工は、トマトペースト市況の下降も販売数量増により増収、一方利益率悪化により減益

売上収益

単位:億円	26年度予想			25年度 実績
		対前年	増減率	
飲料	860	+18	+2.2%	841
通販	145	+5	+3.6%	139
食品他	605	+6	+1.1%	598
国内加工食品計	1,610	+29	+1.9%	1,580
トマト他一次加工	690	+17	+2.6%	672
トマト他二次加工	730	+93	+14.7%	636
調整額	△30	+4	—	△34
国際計	1,390	+115	+9.1%	1,274
その他/調整額	100	+11	+13.6%	88
合計	3,100	+157	+5.3%	2,942

事業利益

	26年度予想			25年度 実績
		対前年	増減率	
	106	+19	+23.0%	86
	8	△1	△19.2%	9
	46	△14	△24.1%	60
	160	+3	+2.1%	156
	40	△12	△23.3%	52
	55	+10	+24.4%	44
	△5	+0	—	△5
	90	△1	△1.3%	91
	△20	+0	—	△20
	230	+3	+1.3%	226

	2025	2026
米ドル	149.71	150.00
ユーロ	169.00	175.00

◆Silbury連結影響
 トマト他一次加工
 売上 + 26億円
 事業利益 + 1億円
 トマト他二次加工
 売上 + 56億円
 事業利益 + 4億円

※2026年度よりベジタリアのセグメント区分を、国際事業から国内加工食品事業へ変更いたします。2025年度のセグメント情報については、変更後の区分に読み替えて作成しております。

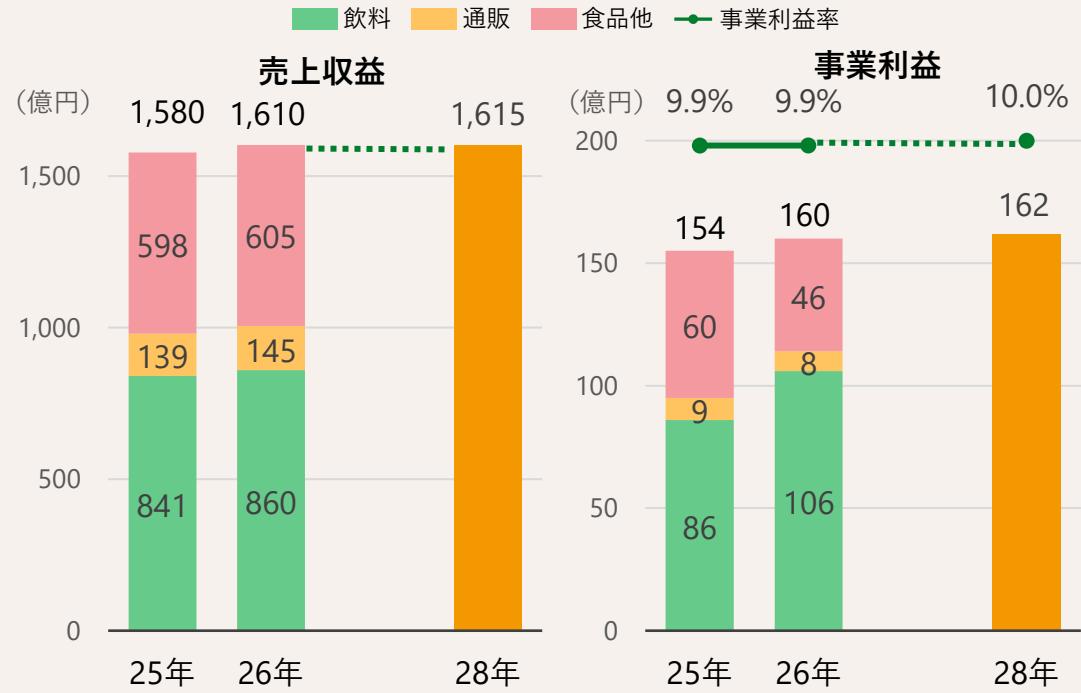
- 繼続する人口減少・製造費用の上昇を跳ね返し、事業構造改革を図り、グループの安定基盤を担う
- 「野菜の美味しさと健康価値による需要創造」を更に深化、機動的な価格戦略を実行、売上成長と利益獲得力を強化

2026年度の主な取組み

- 2026年2月、家庭用・業務用飲料の価格改定を実施
- 商品のバリューアップやプロモーションにより、販売数量の減少を抑制する需要喚起策を図る
 - ※野菜生活100オリジナルの野菜配合量増と飲みやすさ維持
- カゴメならではの開発力を活かした新商品や人手不足解消商品の拡充など、付加価値型商品を発売

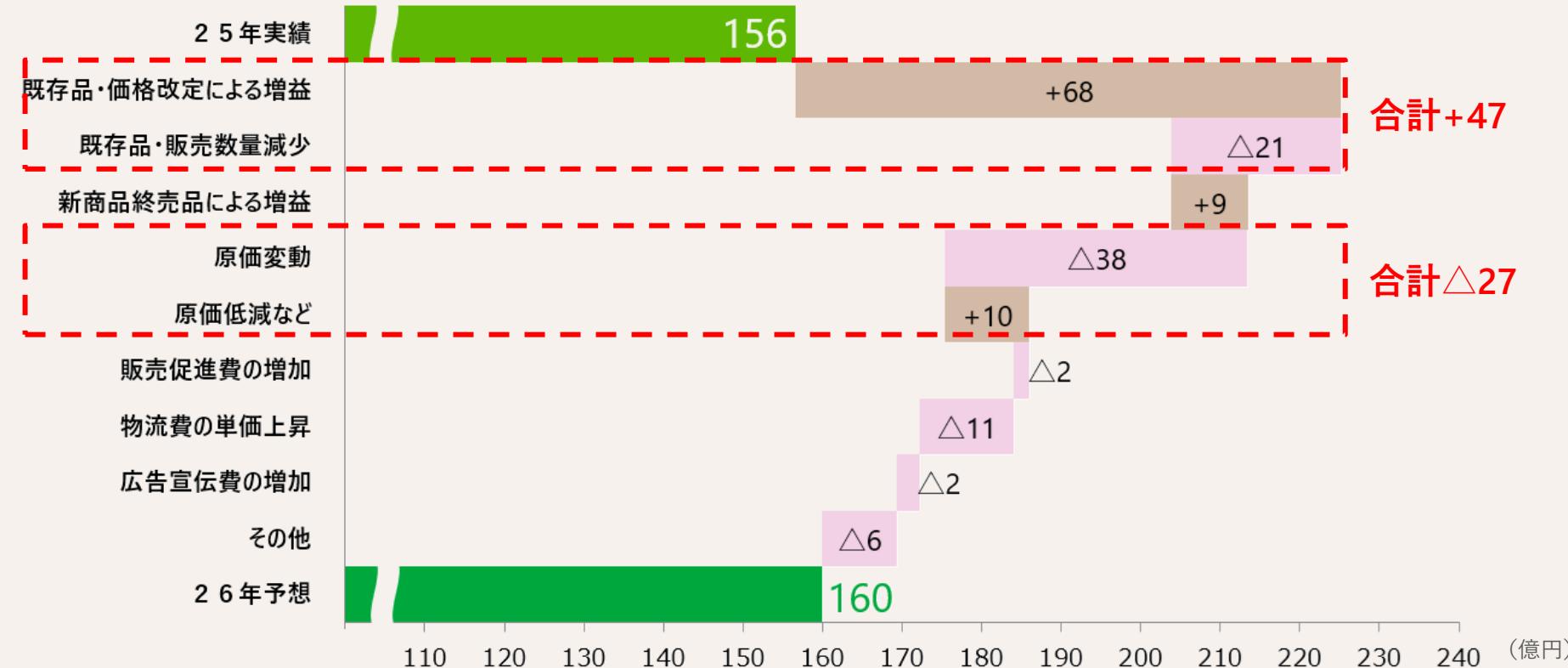


売上収益・事業利益 推移



※2026年度よりベジタリアのセグメント区分を、国際事業から国内加工食品事業へ変更いたします。
2025年度のセグメント情報については、変更後の区分に読み替えて作成しております。

- 価格改定による増益+68億円を見込むが、改定後の販売数量減△21億円により、合計+47億円
- 原材料価格上昇などの影響△38億円を見込むが、原価低減活動の+10億円により、原価変動は合計△27億円



- トマト他一次加工：トマトペースト市況の変動を前提に、安定的な収益基盤の強化
- トマト他二次加工：市場規模の大きい米国に加え、欧州を重点地域と位置づけ、事業拡大を推進

2026年度の取組み

【トマト他一次加工】

- 契約農家と協力し、品種・栽培方法を最適化、加工用トマトの糖度向上により一次加工の歩留まり向上を図る
- 更なる省人化投資により、人件費抑制と製造効率の改善を進める

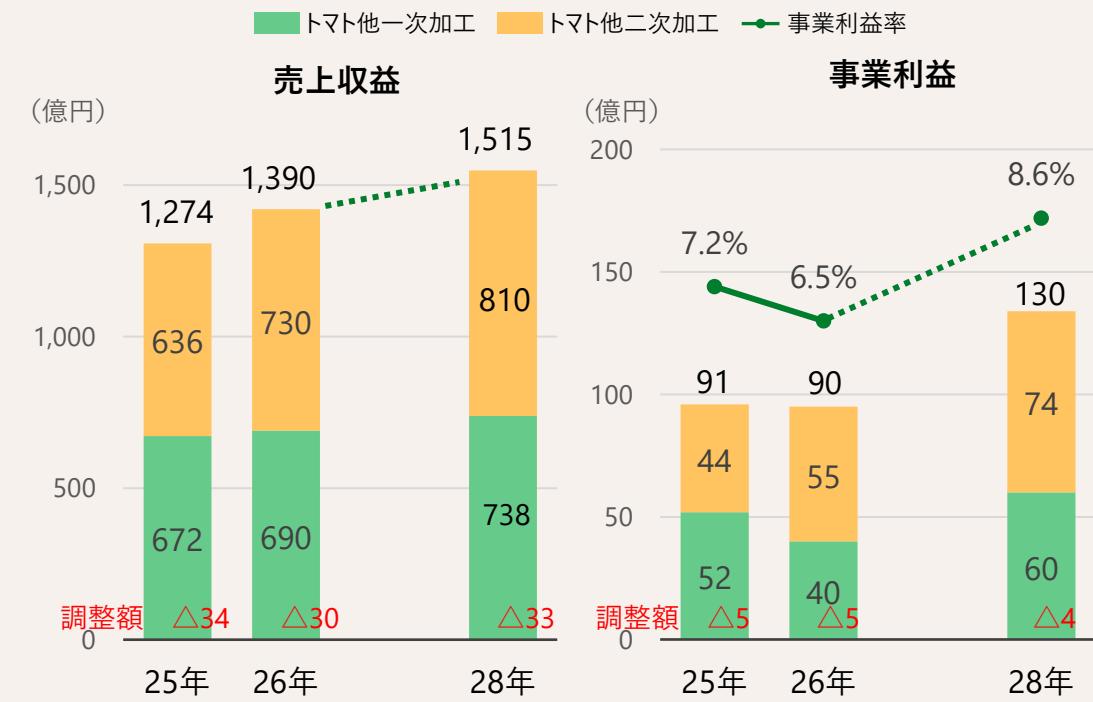


【トマト他二次加工】

- 米国の営業・マーケティング組織を強化し、大規模顧客の新規開拓を推進
- SilburyとのPMIを推進、英国に加え、仏独市場開拓プランの検討

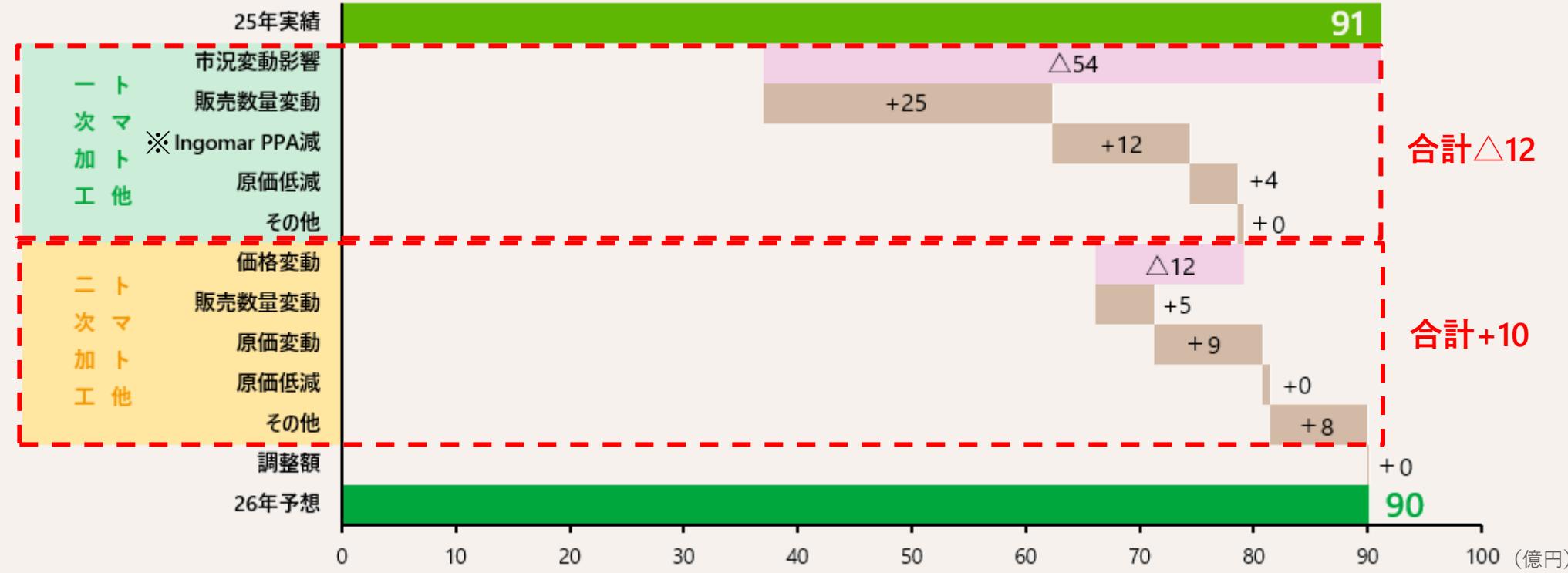


売上収益・事業利益 推移



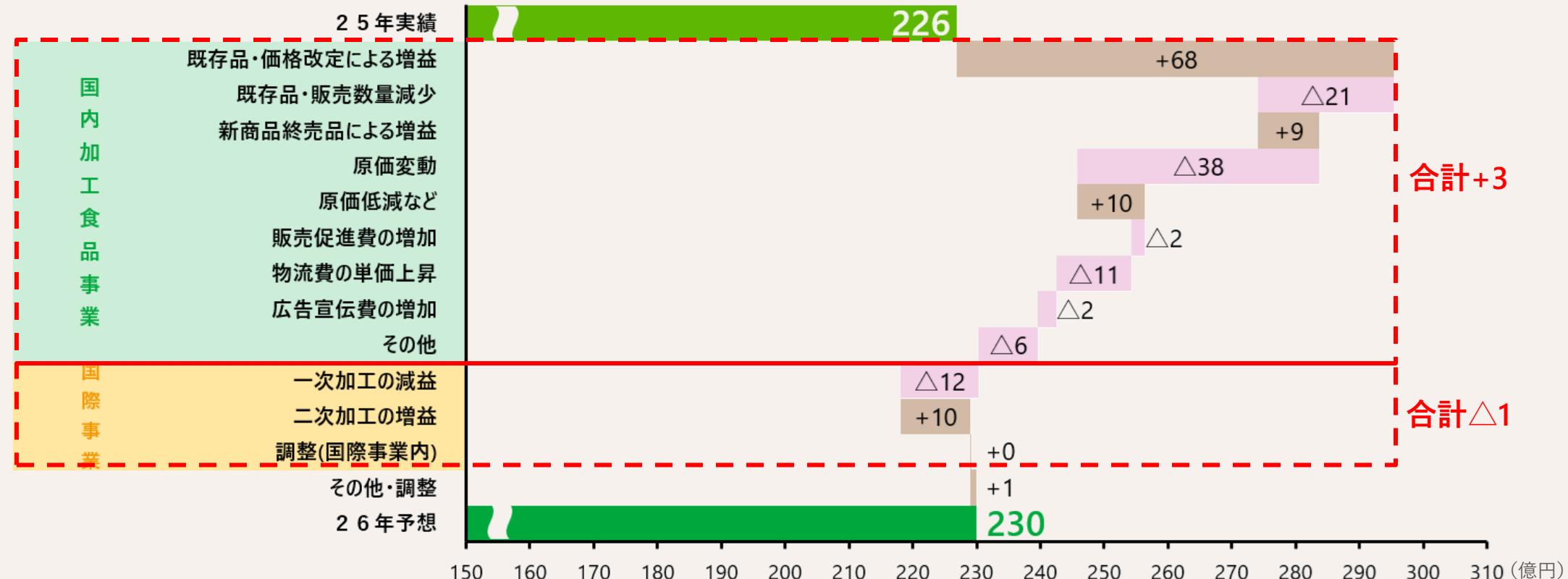
2 2026年度 国際事業 事業利益増減要因

- トマト他一次加工：市況変動影響として、ペースト販売価格変動と加工用トマト調達価格などの原価変動で△54億円
- トマト他二次加工：販売数量を伸ばし+5億円、製造ロス低減などにより全体で+10億円



※企業結合会計を適用したことに伴う、在庫・固定資産（有形・無形）などを時価評価したことにより生じる利益影響：25年度 △32、26年度 △20、増減+12

- 連結全体の事業利益増減要因は以下の通り



- 売上収益：前期比+5.3%の3,100億円、事業利益：同+1.3%の230億円
- 当期利益：前期の実効税率がIngomar税務申告調整などの影響で例年より低いことからの反動で減益

単位:億円	26年度予想		対前年		25年度 実績
		比率		増減率	
売上収益	3,100	-	+158	+5.3%	2,942
事業利益	230	7.4%	+4	+1.3%	226
営業利益	230	7.4%	+4	+1.6%	226
当期利益※	134	4.3%	△14	△9.5%	148
EPS (円)	147.47	-	△13.95	△8.6%	161.42

※親会社の所有者に帰属する当期利益



参考資料

飲料

- **トマトジュース** 売上239億円（前期比+17%）
4年連続で出荷量が過去最高
- **野菜生活100** 売上370億円（前期比△5%）
発売開始から30周年、子育て層を中心に
購入率上昇。一方で節約志向などの影響で
ケース販売が減少
- **アーモンド・ブリース**
著名人を起用した販促により認知は向上、
市場規模は健康・美容への関心で過去最高



通販

- **野菜飲料** 売上86億円（前期比+4%）
「日本のトマト」が好調に推移
- **スープ** 売上19億円（前期比+12%）
具だくさんポタージュを中心にWEB広告などの
影響もあり好調に推移
- **サプリメント** 売上17億円（前期比△10%）



食品他

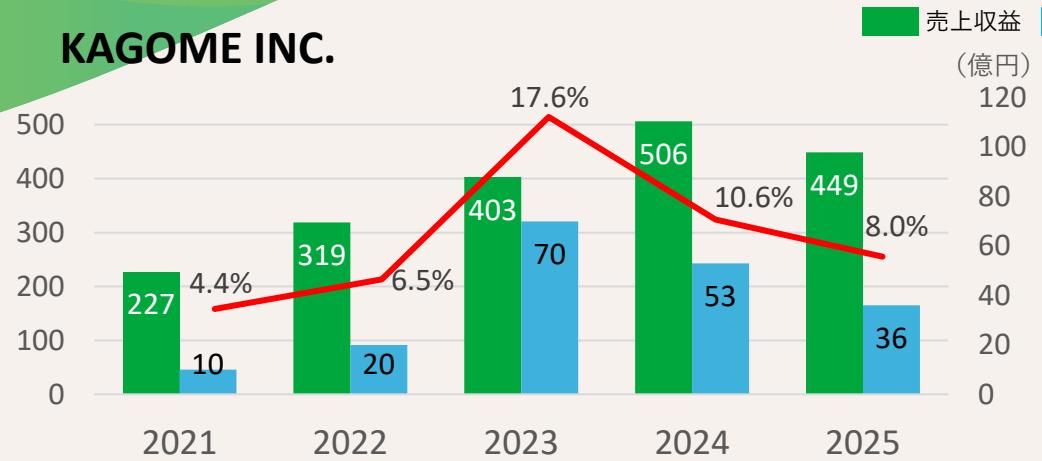
- **家庭用食品** 売上212億円（前期比+1%）
トマトケチャップとソースの万能調味料としての
用途がさらに浸透
- **業務用** 売上290億円（前期比△2%）
冷凍野菜などを中心に不調



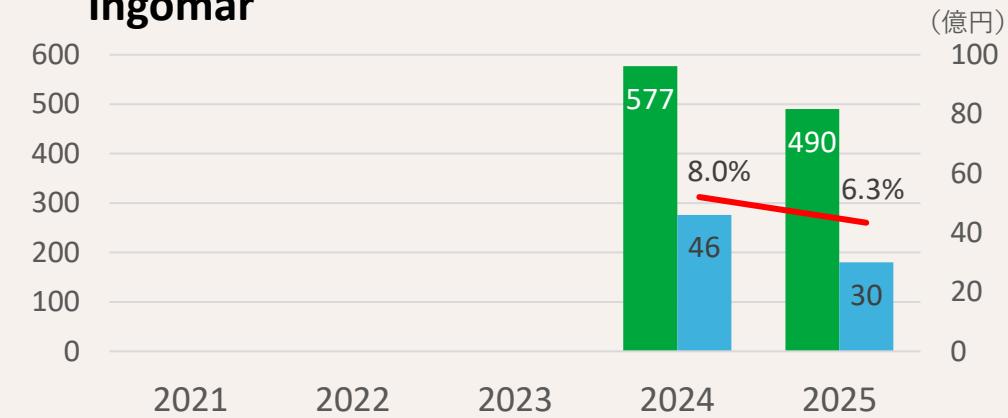
2025年度 国際事業 主な子会社業績



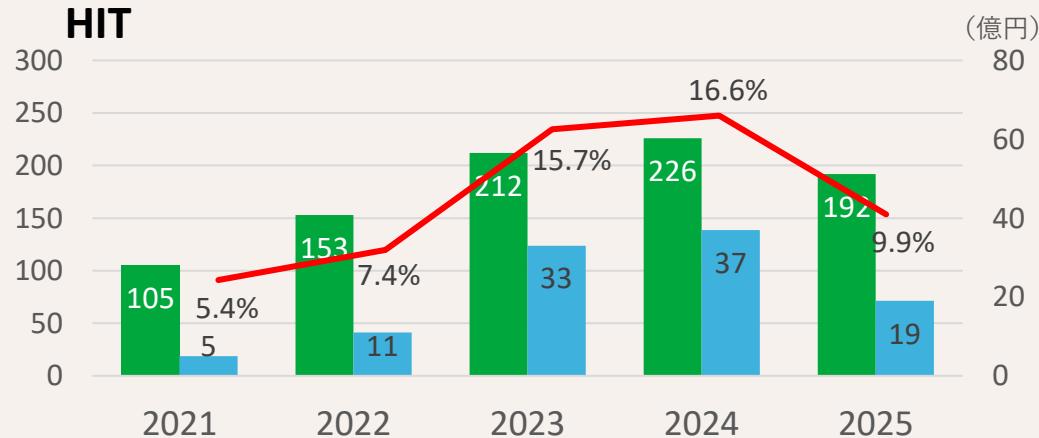
KAGOME INC.



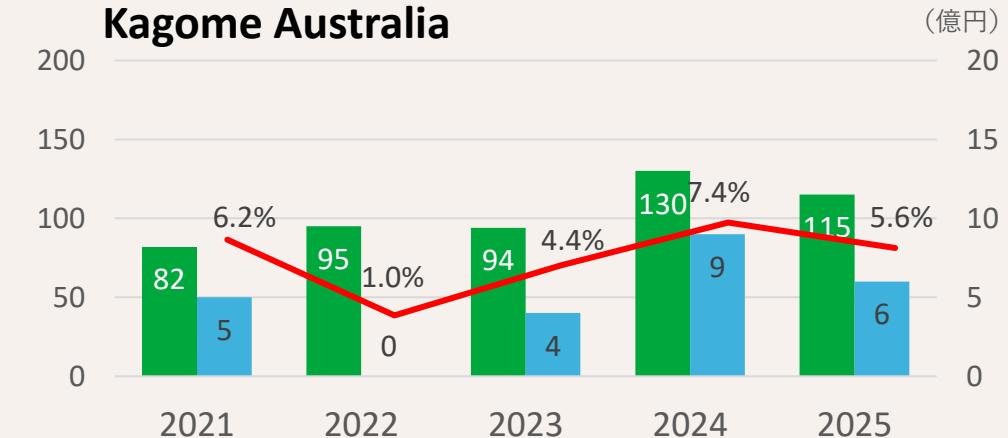
Ingomar



HIT



Kagome Australia



2025年度 財政状態計算書変動内容



- 総資産は前期末比+134億円の3,758億円（うち、為替影響は+39億円）

資産 / 負債・資本

3,758億円 (前期末比 +134億円)

親会社所有者帰属持分比率
50.7% (前期末比△0.6pt)

連結財政状態計算書

2025年12月31日 (億円)

資産 3,758 (+134)

－ 流動資産 2,167 (+68)

－ 非流動資産 1,590 (+65)

負債 1,609 (+101)

資本 2,148 (+32)

※ () 内は前期末比

前期末からの増減内容（為替影響含む） (億円)

▶ 流動資産 2,167 (+68)

現金及び現金同等物 +55
営業債権及びその他の債権 +11 など

▶ 非流動資産 1,590 (+65)

その他の金融資産 +46、有形固定資産 +27 など

▶ 負債 1,609 (+101)

借入金（長期含む） +97 など

▶ 資本 2,148 (+32)

親会社に帰属する当期利益 +148、資本性金融商品 +23
自己株式の取得 △82、支払配当金 △53
非支配株主持分 △15 など

2025年度 キャッシュフローの主な内容



- フリー・キャッシュフロー：営業CFは収入が前期比で減少も投資CFの支出が減少したため、FCFは増加

単位:億円	25年度実績			24年度 実績
		対前年	増減率	
営業活動によるキャッシュフロー(A)	269	△48	△15.1%	316
投資活動によるキャッシュフロー(B)	△114	348	—	△463
フリー・キャッシュフロー(A+B)	154	300	—	△146
財務活動によるキャッシュフロー	△103	△98	—	△5

(億円)

▶ 営業活動によるキャッシュフロー 269 (△48)

税引前利益211、減価償却費及び償却費118、棚卸資産の減少21、法人所得税支払△47
利息の支払△24 など

▶ 投資活動によるキャッシュフロー △114 (+348)

有形固定資産及び無形資産の取得による支出△113 など

▶ 財務活動によるキャッシュフロー △103 (△98)

自己株式の取得による支出△81、配当金の支払△53、短期借入金の増加47 など

注意事項

当資料はカゴメの現在の計画、見通し、戦略などのうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたカゴメの経営者の判断に基づいております。従いまして、これら業績見通しのみに全面的な依拠することは控えるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、以下のようなものが含まれます。すなわち、①天候、特に夏場の低温 ②異物混入等の製品事故 ③カゴメの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向 ④変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品やサービスをカゴメが企画・開発し続けていく能力、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また当資料は、あくまでカゴメをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。さらに当資料に記載されている市場などのデータ等におきましても、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成しておりますが、将来の予測のみならず 過去の部分も含めて、見直し等により予告なしに変更することがありますので注意ください。